

# 掛川市図書館協議会議事録

会議名	平成30年度第1回図書館協議会									
場所	掛川市立中央図書館 会議室A									
開催日時	平成30年6月5日(火) 午後1時30分から午後3時30分									
出席者	会長	副長	長理員	鴻野元希	館長	長幹	奥野寿夫	居久子	美雪子	乃基乃
	会委員	会委員	会委員	福住久美子	館副主	中央図書係長	鳥葉信晶	原藤晶	由澤島由	藤島由
	会委員	会委員	会委員	土井弘子	中大須賀	図書係長	後藤晶	基乃		
	会委員	会委員	会委員	鈴木由加里子						
	会委員	会委員	会委員	増田美穂子						
	会委員	会委員	会委員	眞子尚代						
	会委員	会委員	会委員	戸塚ひろみ						
	会委員	会委員	会委員	岡田昇						
	会委員	会委員	会委員	田中克美						

## 1 協議事項

- (1) 図書館の基本的運営方針について
  - (2) 掛川市図書館協議会委員の公募について

## 2 報告事項

- (1) 平成29年度市立図書館事業報告及び統計資料
  - (2) 平成30年2月以降の事業実施状況・予定
  - (3) 平成30年度市立図書館事業計画

1 開 会

## 2 会長あいさつ

### 3 教育長あいさつ

## 4 協議事項

- ### (1) 図書館の基本的運営方針について

事務局より資料にて説明があった。

会長：最初に3ページの現状と課題で、小学生は本を借りてよく読んでいる。中学生になると本の貸出は減少し、高校生はさらに減ってくる。以前も話したが大学生は本を読まなくなる。

現状として、デジタル化の波が押し寄せてきているため、それをどのように考えるかが、全体的な課題である。中学生のスマートフォンの利用が90%を越えた厳しい状況の中で、図書館活動あるいは読書指導をどうしていくかが、今後の大きな課題である。

5ページにはミッション、6～7ページについてご意見を聞きたい。3番目の「つながる」というところの、市民との協働で、図書館は市民にサービスを提供するということばかりではなく、市民とともに図書館をつくって行くという姿勢も必要である。市民はサービスを受ける側の立場だけではなく、ともに作り出すということも大事である。

ターゲットを子どもとシニアにしており、青年達は図書館の対象となっていない。図書館は午後7時まで開館しているが、7時までだと一般的なサラリーマンが来館できるかが課題である。

委 員：10ページ施策の方向で、主要事業(1)読書活動の推進①の読書の楽しさを広め、読書活動を推進で、「絵画、音楽、映像などを通じて、市民の感性を高めます」とあるが、この表現の仕方は検討が必要である。

委 員：「読書活動を推進します。」に変えたのか。

- 館 長：この部分は「図書館のあり方について」を参考にして、「です。ます。」調に変更した。
- 会 長：図書館は何をするところなのかという問題になる。  
図書館は絵画、音楽、映像について情報の提供、収集があるので構わないと思うが、図書館活動の推進という大きな目標のなかで考えることである。
- 館 長：どのように変更したほうがよいか、検討いただきたい。
- 会長代理：いいたいことは分かるので、行を変えればどうか。
- 会 長：その辺は検討が必要である。
- 会長代理：9ページ、市民との協働について、先週行った図書館利用者との意見交換会の中で、市民が利用するだけでなく市民が図書館に対し何が出来るのかという話が出た。  
懇談会終了後に、市民の方に話が聞けたが、将来市民との協働の中で図書館を支えるものができるといい。また、子ども読書について、上の子の時は「こんにちは絵本事業」がなかったが、下の子の時はあったので、子育て支援について図書館も充実してきた。  
そして、市民との協働ですが、ボランティアやまち協との協働ではなく「友の会」的な組織との協働が必要である。
- 会 長：市民との協働の③に「人材バンクや図書館支援等の仕組みづくりの検討」とあるが、具体的に図書館を支援する友の会のような組織が生まれてくるかがこれからの課題である。  
育てていかないと行けないし、図書館に旗を振ってもらはないと市民は動けないということもある。
- 館 長：友の会は図書館でつくるものではない。場所や情報は提供できる。  
懇談会では、市民の方が18人集まっていた。牧之原や藤枝など友の会の活動をされているところの話を聞いてみようということになっている。バザーをやってたり、催し物を開催しているということである。
- 会 長：今後、大事な点としては、サービスを受けるだけでないということを市民に示すことである。  
関連して、11ページの広報活動・情報公開で、ツイッターはよくできているが、フォロワーが130人くらいで私はそのうちの1人である。内容がとてもいいので、何かみていただく方法がないか。  
また、図書館入り口の特集も工夫してやっているのに知らない方が多い。呼び込むための方法について検討が必要である。
- 委 員：QRコードの大きなものを貼ったらどうか。
- 会 長：以前にも話したが、図書館だよりが各戸配布でないので、せめて回覧がやれるような工夫が出来ないか。
- 会長代理：大東は回覧している。
- 館 長：大東の区長会は、大東図書館建設の時からの縁である。掛川区域と大須賀区域は配りのことが多いということから難しい。  
NHKでよく見られているツイッターがあるという番組をやっていた。お役所的なコメントでは面白くなく、奇抜な発想でコメントをつけたら、すごく注目されたそうである。  
大須賀図書館では、若い職員がつぶやきたいということで、少しラフな感じで行っている。
- 会 長：今、読書メーターというサイトがある。読書メーターというサイトは誰でも簡単に入れ、掛川でも読書メーターの会員が感想をあげられる。このようなものも利用していくべき読書の広がりもでてくる。  
この前、ホールで写真展をやった。見学された方が1,177人いた。このようなイベントを実施すれば図書館が何をやっているか知らせるチャンスになる。

- 3館とも大変なことをやっているのに知られていない。なにかいい方法がないか。
- 館 長：市でも、シティープロモーションに力を入れていて、その中でも森に囲まれた図書館として紹介してもらっている。「このようによい図書館があるまちですから掛川に来てください。」と発信している。
- 会 長：昨年、田原市の図書館を訪問したが、学んだことを一つくらいどこかで生かして、うまく活用できるようにと思っている。  
地方史の文献をデジタル化することについて、資料を収集し整理して所蔵するということについてどのように考えるか。
- 委 員：横須賀城主末裔の方が寄贈していただいた資料が大東図書館にある。かなり昔の出来事や事件など、いろいろな情報があり、県レベルでも通用するくらいの情報がある。ボランティアや高校生が資料をまとめて、地域の情報・地域の資料として、100年、200年先まで情報が引き継がれれば理想である。  
今の次点で、江戸時代に書かれた文献などは、古文書会で翻訳して、事件毎に分けている。地域を見直し、地域に興味を持ってもらうには、このような資料は大変役立つ。  
学校教育においても積極的に図書館、資料館若しくは美術館の資料などを活用し、地域に興味を持っていただきたい。
- 会 長：図書館が中心となる事業の一つだと思うが、今のお話だと、予算もなく人材もなく機材もない状態である。単純にデジタル化といってもなかなか難しい面があるので、早めに取り組んでいくことが大事である。  
読書活動については、図書館と学校とのかかわりになると思うが、小学生の本の貸し出しは多いのか。
- 委 員：学校にもよるが、一週間に一回は学校の図書館に行くよう指導している。今年は司書を配置していただいたので、全学年学習指導を行った。  
先ほどの話の中で、掛川市の図書館に求められるミッションに、「市民のくらしやまちづくりを支援」とあるが、図書館が助ける役割を果たすということで、市民活動の時に図書館を利用してもらえれば、利用者も増えてくる。誰でも使用できることをアピールする必要がある。
- 会 長：図書館としては協力団体以外の団体にスペースを提供することは考えていないのか。
- 館 長：徐々にではあるが、施設の利用の条件について緩和している。
- 会 長：施設を貸し出すことはいろいろな制約はあると思うが、やはり協力団体を増やすことも一つの手である。
- 館 長：有償の施設もあり、図書館で無制限に貸し出しを行うと、そちらに影響が出てくるので、悩ましいところである。  
しかし、ある程度公共性があるところには貸し出しており、徐々に緩和している。同様に、展示スペースも空いている時があるので、個人的ではなく公共性があるものは緩和していく。
- 会 長：大東、大須賀まで行って図書館とコラボし展示するのはハードルが高いが、中央館であれば結構希望はある。そのためには、しっかりと図書館を利用する団体として図書館を支えないとダメである。  
これにより、図書館が情報発信の拠点であり、まちづくりにつながる。
- 委 員：掛川市・磐田市・浜松市の方と一緒に、図書館を使わせていただき「よみきかせ」を行いたいと思ったが、図書館活動の団体として入ってないのでダメということがあった。掛川市の方は子ども読書活動を考える会に入っている方であったので、このような場合は、使用させていただきたい。
- 館 長：なかなか難し判断で、以前飲食も禁止であったが多少のことについてはOKとしている。会場内でお茶が飲めるお茶講座も今年度行う。  
その辺は試行錯誤しながら広く利用していただくように考える。

会長代理：現在、大東館で開催している「ひさよしくん」はどこの主催ですか。

副館長：図書館主催です。

会長代理：その辺りが見えない。

会長：その辺りを分かりやすくしてもらいたい。シニアの方と固定客が多くリピーターが増えることはいいことではあるが、新しい人に来ていただきという点では展示などはいい。施設を活用するということになると、来ていただかないと活用できないので今後の大きな課題である。

小学校はどこも工夫して読書指導し、BMなども活用している。図書館は、中学生・高校生は勉強をする場所として、位置づけられていて中間テスト・期末テストの前は、溢れるくらいである。その辺をどのように考えるかである。

この際だから、会議室を開放してはどうか。使用していなければ、学習室にしてもいいのではないか。夏休みなどは、それも一つの手であり、そこでお弁当を食べてもいいようにする。

委員：質問です。夜どのくらいのお客が来るのか。夜の図書館をやっているが、効果があるのか、夜の図書館の依頼を受けた時に、本当に必要があるのかという声もあった。私たちは、よみきかせをやっている団体であるが、高齢者施設にも依頼があれば行っている。一般の人向けたよみきかせの機会がないので、夜の図書館で行うのもいいのではと考えている。時間延長で7時まで開館している時には、どのくらいの来館者が来るのか、夜の図書館の時にはどのくらい見込めるのか、そのようなデータがあるか。

館長：手元にデータはないが、遅い時間帯にいる利用者は少ない。

会長：夜の図書館は足を運んでもらうことをポイントにしており、図書館を開放し書架の場所で催し物をする図書館はない。したがって、図書館で本を読んで他人に迷惑をかけないように静かな雰囲気で図書館を楽しむ「知性と教養」の場であると考えること。一方、楽しみということが読書につながっていくということであれば、いいのではないか。

夜のこの時間帯なら行ってもいいという方もいるのかなと思う。ましてやウイークデイの夜であるため。

委員：年齢別貸出利用者数で、気になるのが年齢層で19歳以上がひとくくりになっているため、イベントを実施する時にどの年代の人にターゲットを絞るか、もう少し細かく年齢分けできないか。

会長：高校生は入館者が多いと思うが、図書館に来て勉強するが、本を借りていかない。

館長：この資料はもともと、子ども読書活動推進会議用につくったもので、子ども中心の資料である。例えば、60代以上もわかる資料とする。

会長：この数字を単純にみて、小学生と中学生を比べたら中学生は1/10しか読んでいないのは、ひとつの象徴である。

読書活動の時に提案したが、スマホがどのように影響しているのかも研究してもらいたい。スマホをやっている時間だけ読書がけづられていることは間違いない。大人もスマホを使用している時間が長くなっている。

会長代理：2ページ目の(4)「アンケート未定」とあるが、どうするのか。

館長：予定はありません。実施できればいいと思ったが、実際はそこまでは困難である。

会長代理：滋賀県では、基本的運営方針のパブコメを行い。174件の意見が寄せられたということである。

会長：数値目標の中で、以前図書館のカードを作るということを呼びかけていて、掛川市民であれば、図書館の利用者カードは持っていてほしい。

現在、10万人くらいか。

- 館 長：現在、9万5千人ほどです。抹消していないものもあるので、それが課題である。
- 会 長：持っている方はかなり多いので、その点では掛川市民の意識が高いといえる。  
小学生まではカードを作ってもらっているが、要するにシニア世代が課題である。
- 館 長：全国の先進図書館のうち、15万人以下の図書館のなかの登録者数7万7千人を上回ってはいる。
- 会 長：この辺の数字はクリアしている。
- 委 員：5ページの4の目指す姿の中に、「必要な知識や情報を得て」とある。それぞれの図書館でコーナーをつくって展示などを行っているが、例えば、どのようなコーナーがほしいのか一般市民に聞いているのか。それとも、図書館から情報発信しているのか。
- 事務局：大須賀館では、図書館職員により発信している。その他、地域の行事などに併せて行っている。
- 委 員：図書館と市民との連絡・文通などのやりとりが出来ないのか。そうすれば、希望を聞くことが出来る。
- 会 長：レファレンスなどで、ここにないものは県立図書館から送ってもらえるなど、そのようなシステムについては周知されていないので、一般的な市民は知らない。  
何でも相談コーナーをつくってもらい、毎日でなくとも、例えば土曜日にそのようなコーナーを設ける。そうすれば、国会図書館にあるものなどはデジタルアーカイブを使えばいい。しかし、そういうことは知らない。
- 委 員：14ページの「民間活力の導入等検討していきます。」と記載されているが、それほどのことなのか。
- 館 長：これは、公共施設等総合管理計画に記載されている文言そのままで、図書館の中でも民間で出来る部分は民間で検討するようにという話をいただいている。ただし、今現在具体的になっていない。
- 会 長：心配されるのでここに記載しなくてもいいのでは、例えば、地下のスペースを貸し出し、使用するのにお金を取ると、結構採算がとれるといった人がいたが、そのようなことも考えられるのか。  
会合する時に、9時まで貸し出すなどしたらどうか、ここでいっている民間活力はそういうことではないのか。
- 館 長：湖西の図書館が会議室を有料貸出しを行う。複合施設だと会議室は別に貸出して、図書館単独施設だとなかなか難しい面がある。図書館法の無料の原則ということもある。  
この場合、貸し出しを行っても駐車場の問題や管理の問題があるので、簡単ではない。
- 委 員：夜は会議室は貸し出さないのか。
- 館 長：貸し出してはいない。駐車場は、夜のイベント等のときに貸し出すことはある。
- 委 員：6ページについて、情報や知識は教員にも求められるものではなくなってきている。そうすると、図書館の役割とは何かというと、ここでいえば左側になると思うが。分からぬのが、一番下に文化・科学があって、それが成熟した地域・都市格につながっていって、希望が見えるまちが一番上で、誰もが住みたくなる町が2番目、普通は希望が見えるから住みたくなるんではないかなとおもう。どうのような並びかなとそこで躊躇してしまって、右側の教養・技能の上に知性・創造性・人格とか、またその上に生きる力があって、その上に心豊かで凜とした市民があつてということで、よくわからない。

- 会 長：生涯学習を目指すのはこんな感じであるということである。
- 館 長：ここはそういった意味では未熟であるため、是非ご指摘いただきたい。今言われた誰もが住みたくなる町、希望が見えるまちなどは、もう少し考えた方がいいんではないかという意見がある。
- 委 員：次のページは、説明があつて分かりやす。
- 会 長：知の拠点として、知識・情報は図書館に来なくてもいい時代になってきているので、かなり深刻な事態である。スマホの中に図書館がある。むしろ、そのような知識や情報をどのように活用するかにシフトしないと図書館の役割は果たせないのでないか。  
では、知識・情報をどう活用するかということについて、図書館は何をしてくれるのかがみてこない。なかなか難しいことで、役割を担うとすれば図書館は深い学びのところに結びつけていく。そのようなものを育てる場所であると私は考えている。最終的に夢に向かう心豊かで凜とした市民で、そうした生きる力を持つ人だと思っている。  
今後は、図書館は何をするところなのかということ、先ほどの話で、知識・情報など比べると弱い、高校生にとって図書館に行って調べるということはどうかなという気がする。
- 会長代理：パソコンなりスマホから得た知識がいかに危ういかという授業を受けているが、図書館ではいろいろなものを調べることができる。このような紙媒体を使って子どもがいかに自主的に勉強出来るかということである。ネットだけではアウトで、不確かさとか子どもへの悪影響を考えると図書館との両輪で行う必要がある。大学生は授業をスマホで取っていて、聞くとそこでみたものだけを信じて解釈しているので、見比べて学習することができなくなっている。公共図書館の利用の仕方を出してもらいたい。
- 会 長：課題が多くて、現在の図書館の人員でこれだけのサービスをしろというのは大変難しい。今後のあり方を考えた時に、生きた知識を生かすことのできるな編集能力であるとか、そういったことを身につけるプログラムがあるといいと思うが、これもなかなか難しい。  
いま、図書館職員は本の受入と貸出と整理だけでほぼ一日が過ぎてしまっているので、業務的にはそれがめいっぱいである。  
もしそれをやるのであれば、しっかりと人員を増やすことなどを考えなくてはならない。現在、貸出は自動でやっているが、あまり使用されていない。結局、一対一の対話的な貸出になる。それは、私はいいことだと思う自動貸出機ではなく、対話的な貸出がいい。
- 館 長：実は、この秋の視察先を岡崎と安城に行く予定をしているが、そちらの図書館はお金がすごくかかっており、窓口での貸出返却はない、このような図書館も出てきているのは事実である。  
掛川でそれを行うには、全ての本を自動貸し出し用に処理しなければならなくなる。大東図書館ではＩＣタグで、半分の方が自動貸出機を使用している。
- 委 員：貸出業務は、大切な業務である。市民がどのような本を読んでいるかなどを把握するために必要である。それを機械で済ませてしまうのはおかしいことである。
- 館 長：図書館の業務としては、貸出が基本であり、そこで利用者のニーズをつかんだり、相談にのったりだとかは今言われたとおりだと感じている。  
一方で機械化するというところで進んでいるところもある。その分は他のサービスを行うという考え方もある。
- 会 長：スマホが入ってきてから3年くらいしかたっていないが、その頃は3年後の今日が想像できなかった。デジタル化とか機械化の波というのが、私たちが想像する以上に進んでいるので、図書館もそのことを理解し、何を残すのか取り入れるのかを考えなくてはいけない。

## (2) 図書館協議会委員の公募について

事務局より資料にて説明があった。

会長：いよいよ公募制がはじまる。応募者がたくさんあることを期待している。  
皆さんからご意見がなければ、これで承認とする。

## 2 報告事項

- (1) 平成29年度市立図書館事業報告及び統計資料
- (2) 平成29年2月以降の事業実施状況・予定
- (3) 平成30年度市立図書館事業計画

事務局：資料により報告を行った。

## 3 連絡事項

- (1) 平成30年度図書館協議会等開催予定について
  - 平成30年9月25日又は27日 第2回図書館協議会（大須賀図書館）
  - 平成30年11月8日 第3回図書館協議会（視察研修）
  - 平成31年2月 第4回図書館協議会（大東図書館）

## 4 閉会